

府中町あるさと歴史散歩

〔第29回〕

文化財としての地名⑩ 昭和初期の町内会名（5）御衣尾

昭和初期の頃の字名（15）の町内会名、辻・中郷・砂原・石井城・江本寺・御衣尾・五反田・山田・大崎・市・沖・尾首・八幡・浜田・茂陰・鹿籠は古い歴史に基づいた所が多く、現在も生き続けている。

今回は、北部の地域の1つである「御衣尾」について考えていくこととする。

（2）字 御衣尾

「昔から御衣尾」という地名があるといわれている。昔、神武天皇がこの地にお立ち寄りになつた際に、里人が着物を織つて献上したことがこの地名の起りこりと言われている。また、道隆寺が繁栄していた頃に、この地は布綿の産地として、各地に売り出し、しかも高級品として貴族の衣類用に用いられたことにより、この字名が呼ばれてきたという。

真否については不明であるが、昔から養蚕業と織物業がかなり盛んに行われていたのではないか。しかし、今ではその当時の様子がうかがえるような光景はない。」（菅原守編『芸州府中荘誌』から筆者が口語訳したもの）

「字 御衣尾」地域は府中町の北部にあり、榎木川の上流域で、山地から平野に出る谷口集落と道隆寺が立地する丘陵地の傾斜面に集落が分布した地域である。現在の住居表示では、みくまり二丁目・三丁目・清水ヶ丘の西部、桜ヶ丘の西部、城ヶ丘の東部などの辺りである。この地区的小字名では「上岡田」・「牛王田」・「堂所」などがある。

「牛王田」とはお田植え、苗代神事に関係した地名である。〔中世の共同苗代を意味する

と思われる。）

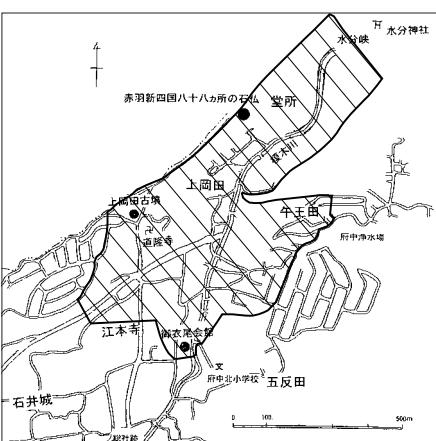
谷口から上流に上がると、水分峠、水分神社（写真①）に至る。水分神社は鎌倉時代の古文書に国に年貢を納めなくてよいという、「免田」が認められている記述が残っているなど、古い歴史を持つ神社であり、この地域の水の神として干ばつ時の雨乞い祈祷の記録も残されている。なお「水分」には「水配り」の意味があり、かつて「みくぱり」と呼ばれていたようである。

また、この地域にある真言宗の道隆寺は大同年間（806～810年）に弘法大師により開基され、関白藤原道隆による再興により、現在の寺名を残すものである。本尊の薬師如来坐像（写真②）は建立仁元年（1201年）の建立と分かる胎内銘があり、広島

県の重要な文化財に指定されている。道隆寺付近の丘陵には上岡田古墳などの古墳が数基存在する。この他に四国靈場巡拝の困難な人たちのために、道隆寺第11世智空上人が文政11年（1828年）に道隆寺の四国靈場として建立した赤羽新四国八十八ヶ所の石仏（写真③）も現存している。

これは道隆寺の境内に第一番・第二番があり、順次東側の雜木林の中に四国八十八ヶ所の靈場の山号を刻んだ石仏が点在するものである。

問い合わせ
教育委員会生涯学習課
☎ 286-3272
熊野俊浩



「字 御衣尾」（■の部分）とその周辺図



写真① 水分神社



写真② 道隆寺と本尊の薬師如来坐像



写真③ 赤羽新四国八十八ヶ所の石仏